

ダム湖版見直し方針（案）に基づくコスト分析

見直し方針（案）に示された項目に関する短期対応あるいは中期対応でのコスト分析に関する検討の対応状況を以下に示す。

表-1(1) コスト分析対応状況【ダム湖版】

項目	対象分類群	見直し方針（案）	対応時期	対応状況 ^{注)}
文献調査	全分類群	・文献調査（調査概要の整理）を廃止し、アドバイザー等専門家からの聞き取り調査で代替する。	短期	○
		・既往の文献調査結果（調査地点と確認種の情報）を簡単に参照できるデータベースを構築する。	中期	検討中
構造物調査	ダム湖環境基図	・前回調査以降、構造物の設置・改変を伴う工事が無い場合は、前回の構造物情報をそのまま活用し、構造物調査（文献調査、現地調査）を省略する。	短期	○
調査地区	植物	・ダム湖周辺（樹林内）については、ダム完成後4巡目の調査結果を見て、変化が頭打ちになり、ダム管理上必要といえる特段の理由がない調査地区は廃止する。	中期	○
	鳥類			○
	両生類・爬虫類・哺乳類			○
	陸上昆虫類等	・ダム管理上必要といえる特段の理由のない限り、ダム完成後5巡目以降は調査サイクルを20年に延ばすこととする。		○ ※他項目と同様、ダム湖周辺は廃止と仮定
	ダム湖環境基図（植生図）	・ダム湖周辺（樹林内）については、ダム完成後4巡目の調査結果を見て、大きな変化がなくダム管理上必要といえる特段の理由のない場合は、今後の調査を廃止する。		○
調査サイクル	陸上昆虫類等	・ダム管理上特段の必要がある場所を除き、ダム完成後5巡目以降は、調査サイクルを20年に延ばす。	中期	○ ※他項目と同様、ダム湖周辺は廃止と仮定
調査時期・回数	魚類	・特別の理由がない限り、原則2回とする。（現行は2回以上）	短期	○
	動植物プランクトン	・定期水質調査に統合することを基本とし、調査頻度は現行のものを踏襲する。		○
		・データの検定（スクリーニング）のあり方について検討する。		中期

注) ○：対応 検討中：現在検討中の項目

表-1(2) コスト分析進捗状況【ダム湖版】

項目	対象分類群	見直し方針（案）	対応時期	対応状況 ^{注)}
調査対象	動植物プランクトン	・定期水質調査に統合することを基本とする。	短期	○
		・指標種及び一定以上の出現率の種に同定対象を絞り込む検討（専門家による分析）を行う。	中期	検討中
調査方法・同定作業	陸上昆虫類等	・指標となる対象種を絞り込むことを検討する。 ・ピットフォールトラップについて削減できるかどうか検討する。	中期 （専門家にヒアリング等を行い意見踏まえ継続検討）	検討中
	底生動物	・指標となる対象種を絞り込むことを検討する。 ・定性採集において生息環境毎にサンプル分析・記録することを見直し、様々な生息環境を含む調査箇所で一括して分析・記録するようにする。		検討中
	両生類・爬虫類・哺乳類	・哺乳類の墜落缶を用いた調査については、河川域については廃止するが、樹林内においては継続する。		検討中
	動植物プランクトン	・定期水質調査に統合することを基本とする。	短期	○
・指標種及び一定以上の出現率の種に同定対象を絞り込む検討（専門家による分析）を行う。		中期	検討中	
・定期水質調査に統合した場合のデータの検定（スクリーニング）のあり方について検討する。			○	

注) ○：対応 検討中：現在検討中の項目

河川水辺の国勢調査は、平成18年度にマニュアルが改訂され、それに関わる参考歩掛（案）が作成された（ただし、現在では参考歩掛（案）は廃止されている）。そこで、この歩掛（案）を用いて調査を行った場合のコストと、第3回の委員会で示された見直し方針（案）の短期対応（文献調査の削減、ダム湖環境基図調査における構造物調査の省略）及び中期対応の一部（ダム湖周辺の調査地区の削減）について、コスト分析を行った。

以下に、コスト分析に関する考え方を記す。

■文献調査削減

- ・全調査項目を対象に短期対応である事前調査の中の文献調査および調査成果のとりまとめの文献調査に関わる部分を削減)

○事前調査

- ・事前調査に含まれる、文献調査、聞き取り調査、(魚類は漁業実態等の把握)のうち、文献調査分を削減した。
- ・事前調査の数量を現行の2分の1として計上した。なお、魚類調査は事前調査の数量を現行の3分の2として計上した(魚類調査では事前調査として、文献調査、聞き取り調査、漁業実態調査を実施しているため)。

○調査成果のとりまとめ

- ・調査成果のとりまとめに含まれる、システムへの入力(事前調査様式)のうち、文献調査分を削減した。
- ・魚類調査以外は、数量を現行の2分の1として計上。魚類は前述したとおり事前調査には3調査項目が含まれているため、数量は現行の3分の2として計上した。

■ダム湖環境基図(構造物調査の省略)

○現地調査

- ・現地調査に含まれる、構造物調査(文献調査)、構造物調査(現地調査)を除いた。

○調査成果のとりまとめ

- ・調査成果のとりまとめに含まれる、水域・構造物調査のうち、構造物調査分を除いた。
- ・現行の現地調査の全人工数のうち、構造物調査の人工数の占める割合分を除いた。

■調査地区数・調査回数等の考え方

○現状

- ・試算に用いる各生物調査項目の調査地区数は、4巡目調査(平成18年度～平成21年度分)における全国平均地区数を適用した。
- ・試算に用いる各生物調査項目の調査回数は、マニュアルに基づき設定した。

○削減後

- ・ダム湖周辺(樹林内)に設定された調査地区について陸上昆虫類等を含め全て廃止した。ダム湖環境基図においては、植生図作成面性のうち樹林に該当する面積及び樹林内のコードラートを全て廃止した。
- ・試算に用いる各生物調査項目の調査回数は、マニュアルに基づき設定した。

■動植物プランクトン調査の定期水質調査への統合

- ・基本的に「ダム貯水池水質調査要領」に基づき実施されている定期水質調査に統合することとし、河川水辺の国勢調査においては現地調査・同定・システムへの入力等は実施しないこととした。